

第37回各務原市地域公共交通会議 議事録

日 時	令和5年1月13日（金） 10:00～
場 所	各務原市役所 産業文化センター 7階第1会議室
委 員 (敬称略)	<p>【出席】(敬称略)</p> <p>相宮 一夫 (岐阜乗合自動車株式会社取締役営業管理部長／代理：宮部 敬輔)</p> <p>大野 淳 (名鉄バス株式会社運輸本部首席交通企画官)</p> <p>小澤 秀彦 (名古屋鉄道株式会社地域活性化推進本部地域連携部付部長兼岐阜エリア担当／代理：早戸 美紅)</p> <p>石井 靖治 (岐阜交通東部株式会社代表取締役)</p> <p>小島 康史 (岐阜県タクシー協会岐阜支部支部長)</p> <p>木村 治史 ((公社)岐阜県バス協会専務理事)</p> <p>正村 明 (岐阜乗合自動車労働組合執行委員長)</p> <p>篠田 勲 (那加自治会連合会長)</p> <p>川島 高司 (蘇原自治会連合会長)</p> <p>木村 徹之 (稲羽川島自治会連合会長)</p> <p>大栗 秀男 (鵜沼自治会連合会長)</p> <p>枝川 田鶴子 (シニアクラブ連合会理事兼女性部会部長)</p> <p>渥美 宏 (中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官)</p> <p>棚橋 典広 (岐阜土木事務所施設管理課長)</p> <p>小井戸 隆正 (各務原警察署交通課長)</p> <p>五十川 玲子 (各務原市議会経済教育常任委員長)</p> <p>各務 英雄 (各務原商工会議所専務理事)</p> <p>加藤 博巳 (㈱アイシン CSS カンパニービジネスマネジメント部部長 ／代理：杉山 仁)</p> <p>川端 光昭 (岐阜工業高等専門学校准教授)</p> <p>小鍋 泰弘 (各務原市副市長)</p> <p>【事務局】 各務原市 産業活力部公共交通政策室</p>

・委員長あいさつ

・議事

①令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について

・報告

①チョイソコ実証運行の実績報告及び評価について

②「チョイソコかかみがはら」停留所の新設・移設について

③「ふれあいバス等懇談会」の開催結果について

④各務原市地域公共交通計画の策定について

・その他

①岐阜バス「笠松川島線」の利用状況について

②各務原市地域公共交通会議の委員変更について

■委員長あいさつ

委員長（小鍋副市長） 挨拶

本日は、年始のお忙しい時期にも関わらず、「第37回各務原市地域公共交通会議」に、ご出席いただき誠にありがとうございます。

今年度は、4月に岐阜バス「笠松川島線」が新たに立ち上がり、10月にはチョイソコかかみがはらの2地区目となる「須衛・各務・八木山エリア」の展開など、積極的な公共交通の拡充を図ったところ です。

チョイソコに関しては、12月末時点で、会員数は約800人、運行開始以降の延べ利用実績は7,000人を超えており、順調に実績を伸ばしております。特にエリアが広がった10月以降は、月500人以上の利用も見られ、今後も利用は延びると見込んでおります。

後ほど、チョイソコの実証運行2年目における実績報告や、岐阜バス様にも「笠松川島線」の現況をお伺いできればと思いますので、ぜひ情報交換をしながら、今後の各事業の在り方についても議論いただけたらと思います。

また、本日の報告案件の中には、毎年開催している地域での懇談会で出たご意見やご要望に関する報告や、「各務原市地域公共交通計画」の策定について説明もごさいます。

住民代表の方の中には、懇談会にもご出席いただいた方もいらっしゃいますが、本日の報告の中でもご意見をお伺いできたらと思います。

計画につきましても、現時点で具体的な計画案をお示しするわけではございませんが、今後の公共交通の方針を考える上で、皆さまからご意見を頂けたらと存じます。

それでは、今申し上げた内容も含めて、地域を支える移動手段として、議事や各報告事項について、活発なご意見をいただきますようどうぞよろしくお願いいたします。

■議事

- ・議事① 令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について

報告・意見

<岐阜運輸支局 渥美委員>

自己評価をすることは、補助金申請はもちろんのことだが、計画を進めていく上で非常に大切である。公共交通施策の効果を評価して改善に繋げる、PDCAサイクルを今後も続けていってほしい。

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p>&lt;岐阜工業高等専門学校 川端委員&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者数増加について、ワクチン接種移動支援を考慮する話があったが、ワクチン接種移動支援を利用した割合は。</li> </ul>	<p>&lt;事務局&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワクチン移動支援による利用者数は、2月～4月で6,894人、7月～8月で3,943人であった。</li> <li>・かねてより利用されていた方がワクチン接種移動支援を利用しているパターンもあるため、支援事業の効果で増えた人数と一緒ではないと考えている。</li> <li>・チョイソコについては利用者実績により確認ができるため、確認しておく。</li> </ul>

■ 報告

- ・ 報告① チョイソコ実証運行の実績報告及び評価について

報告・意見
<p>&lt; ㈱アイシン 加藤委員（代理：杉山委員） &gt;</p> <p>チョイソコは、全国 49 自治体で導入されており、年度中には 50 自治体を超える導入を見込んでいる。各務原市では、初期の頃から導入されており、エリアを広げており、まだ須衛・各務・八木山エリアの利用者数も増やせる可能性があると思込んでいる。今後とも、他の自治体も含めて継続して利用者数を増やしていきたい。</p>

- ・ 報告② 「チョイソコかかみがはら」停留所の新設・移設について  
特に意見なし。

- ・ 報告③ 「ふれあいバス等懇談会」の開催結果について

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p>&lt; 那加自治会連合会長 篠田委員 &gt;</p> <p>昼間の全く利用者のいない時間のバスについては、事務局で把握しているのか。</p> <p>・使われていない昼間の便を他の便にずらす考えはないのか。</p>	<p>&lt; 事務局 &gt;</p> <p>・把握している。</p> <p>・令和元年度に実施している。現在は、大きく減っている便はなく、改正の検討はしていない。</p>
<p>&lt; 川島自治会連合会長 木村委員 &gt;</p> <p>・ふれあいバス川島線について、市役所前駅を中心に循環線としてほしい。</p>	<p>&lt; 事務局 &gt;</p> <p>・懇談会の意見でもいただいており、検討はしているが、周辺道路事情により現状は難しい。</p>

報告・意見
<p>&lt; 稲羽川島自治会連合会長 木村委員 &gt;</p> <p>川島地区において、現在は車に頼っていても 10～15 年後においては高齢化が進み、公共交通に頼ることが予想される。その中で、チョイソコかかみがはらの導入も考えてほしい。</p>
<p>&lt; 鵜沼自治会連合会長 大栗委員 &gt;</p> <p>バスを利用してみないと、利便性の問題などの課題に気づくことができないため、まずは使ってみることが大切だと感じた。まちづくりミーティングでも、高齢化率が 40% を超える八木山団地などの丘陵団地では交通の確保が課題となっている。</p>
<p>&lt; 蘇原自治会連合会長 川島委員 &gt;</p> <p>車に乗ることができなくなったら、公共交通の利用を考えたいと思っている。六軒駅にバスを通してほしいという要望もあるが、まずは駅に来やすいように駅前に無料の駐輪場や送迎の駐車スペースを作って利用しやすい環境づくりをしてほしい。</p>
<p>&lt; シニアクラブ 枝川委員 &gt;</p> <p>自分で車を運転しているため、公共交通について知らないことが多い。今後切実になってくる問題であると考えているため、これから目を向けていく。新鵜沼台や鵜沼台、緑苑団地においても、高齢化率が上がっているため、チョイソコを広げてほしい。</p>

・報告④ 各務原市地域公共交通計画の策定について

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p>&lt;蘇原自治会連合会長 川島委員&gt;</p> <p>・計画の案の中で「自動運転研究・実証等」とあるが、どのあたりまで研究は進んでいるのか。</p>	<p>&lt;各務原市副市長 小鍋委員&gt;</p> <p>・自動運転については、数年でサービスとして確立することが難しく、高齢化が時代として先に到来すると考えているため、まずはチョイソコかかみがはらの導入等を中心に進めている。</p> <p>&lt;岐阜乗合自動車株式会社 相宮委員（代理：宮部委員）&gt;</p> <p>・岐阜市ではすでに実証実験を実施したが、事業者単体では難しいと感じた。今後、自治体と連携し進めていきたい。</p>
<p>&lt;岐阜工業高等専門学校 川端委員&gt;</p> <p>・計画策定のスケジュールについての締切は、いつになるのか。</p>	<p>&lt;事務局&gt;</p> <p>・補助金申請のタイミングがあるため、令和5年度中に完成し、令和6年度の春をリミットとしている。</p>

■その他

・岐阜バス「笠松川島線」の利用状況について

報告・意見
<p>&lt;岐阜乗合自動車株式会社 相宮委員（代理：宮部委員）&gt;</p> <p>笠松川島線は、令和4年4月1日から運行を開始し、平日土日祝日ともに1日5往復の路線である。利用者数は延べ9,500人、1便あたり約3人となっている。利用の多くは、笠松駅で4,000名程度、河川環境楽園で1,300名程度、松波総合病院で400名程度と平日は通学・通院、土日祝日は観光に使われている。名鉄「CentX」で販売したデジタルチケットで利用促進を図ったが、収支率はまだまだ低い。今後は、利用しやすいダイヤへの改正やお得なきっぷ販売、補助金の活用など利用促進に取り組んでいきたい。今後とも、笠松川島線の利用をお願いしたい。</p>
<p>&lt;稲羽川島自治会連合会長 木村委員&gt;</p> <p>河川環境楽園がなければ、路線が成り立たないということが分かった。学生は多く使っていると聞いているが、まだまだ利用者数を伸ばす必要があると考える。川島市民サービスセンターでは、利用を促すためのパンフレットを掲載している。</p>

・各務原市地域公共交通会議委員の交代について

チョイソコかかみがはら担当事業者輪番制のため、会議開催月の担当事業者が委員として出席する。

## ■総括

### 川端先生 総括・指摘事項

住民代表の方々の意見にもあったが、まずは「1回使ってみる」ことが大切である。住民説明会でもあったように、きっかけづくりについて事務局でも力を入れてほしい。外出の意義を捉えなおす思想を新しい計画の中にも取り込んでほしい。